

48 キャンプファイヤー

(料金1団体につき300円)

広大な自然に囲まれた厳粛な雰囲気の中で、聖なる火を迎え、これからの生活について考えるとともに、自分を見つめ、友情の輪を広げ、仲間づくりを進める活動である。

1 ねらい

- (1) 広大な自然の中で赤々と燃える神秘的な営火を囲み、自己反省と深い感動を与える機会とする。
- (2) 参加者の友情の輪を広げ、連帯感や協調性を養う。
- (3) 創意工夫することで、より楽しい「つどい」ができることを理解させる。

2 対象及び最大人数 制限なし 200人

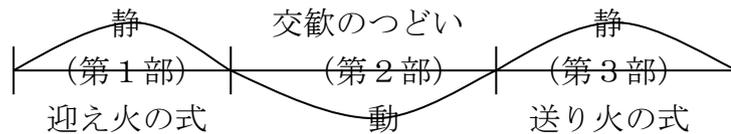
3 所要時間 80分

4 準備

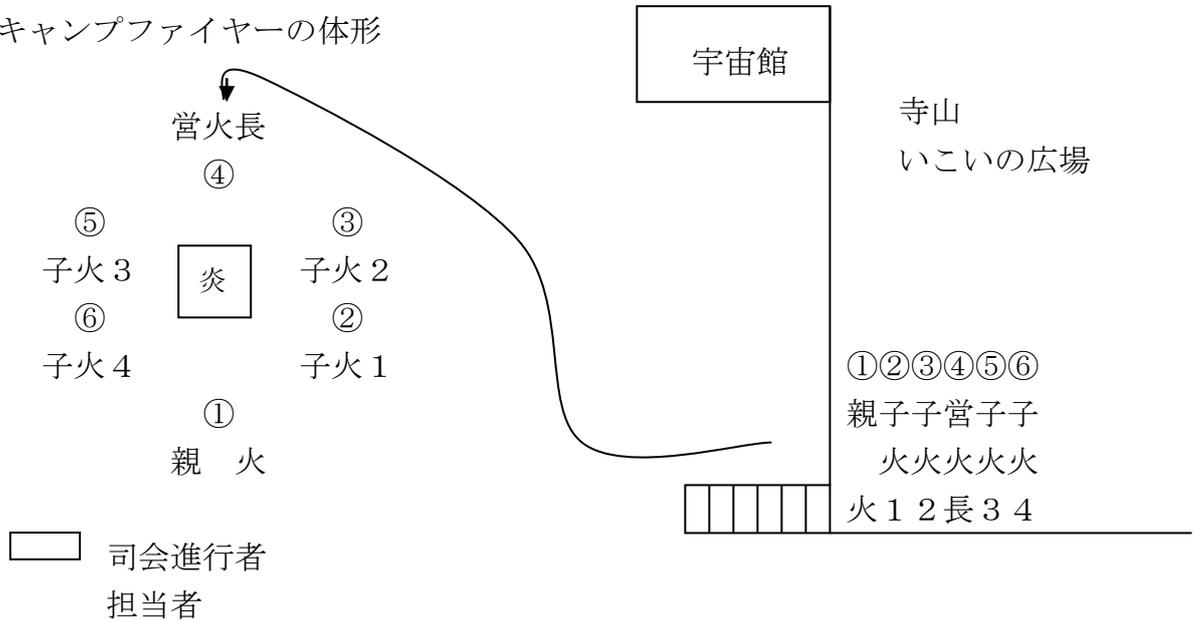
井桁(井桁用まき)・トーチ6本(新聞紙を芯にして布を巻く)・灯油・マッチ(ライター)・消化用ホース・ワイヤレスマイク・CD・CDプレーヤー・アンプ・懐中電灯・アップライト・電源ドラム×2・毛布(火消し)・カバー(灯り用)・各係用のことば・全員への「呼びかけ」文 など

5 指導の実際

- (1) 第1部 迎え火の式・・・火を迎える(厳粛に)
キャンプファイヤーの導入である。
火床を中心に円陣を作る。静かな雰囲気の中で火を迎え、その火を子火に分化し、井桁に点火する儀式で、厳粛な雰囲気の中で思索・内省する儀式でもある。
- (2) 第2部 交歓のつどい・・・交歓・交流(和やかに)
ゲーム、ダンス、歌などのレクリエーションなど、参加団体ごとのスタンツを通して仲間作りや友情をさらに深める。
- (3) 第3部 送り火の式・・・火を送る(なごりをおしみつつ)
キャンプファイヤーの締めくくりである。
静かな雰囲気の中で、別れを惜しみ友情を確かめ合う儀式である。



(1) キャンプファイヤーの体形



(2) 事前打ち合わせ

事前に、団体の代表・世話役の人と係（人数・役割等）や必要な用具・準備すること（スタンプ等）について打ち合わせる。

スタンプは事前に練習しておく。集合時間・場所・隊列についても打ち合わせしておく。

(3) 係分担

- ① 営火長・・・ キャンプファイヤーのまとめ役で参加者を代表して、迎え火・送り火のことばを述べる。原則として団体の引率責任者が行う。
- ② 司会進行・・・ キャンプファイヤーの進行を担当する。原則として団体の引率者が行う。
- ③ 親火・・・ 営火を持ち、営火長・子火を先導する。営火にささげることばを述べる。子火に呼びかけて分火する。
- ④ 子火・・・ 親火の呼びかけに応じて、誓いの言葉を述べる。点火、採火を行う。
- ⑤ 呼びかけ・・・ キャンプファイヤーの呼びかけを担当する。

(1) リハーサル

営火長・進行係・親火・子火の各係に事前にキャンプファイヤー場でセレモニー（儀式）の説明をし、第1部迎え火の式、第3部送り火の式のリハーサルを行う。

(2) 事前指導

① 事前打合せ

② 各係に割り当てられた人を紹介し、激励する。

担当者のうち一人は、各係の人を参加者より早くファイヤー場に案内し、トーチを持って運動公園入口の階段で待機させる。

③ 参加者にキャンプファイヤーの基本的な流れなどを説明し、みんなで盛り上げていくように指導する。また、次の事を守らせる。

ア. 迎え火の式、送り火の式は、厳粛な雰囲気の中で行う。

イ. 私語をつつしみ、ふざけたりしない。

ウ. ファイヤー場では、小石等を絶対に投げたりしない。

エ. スタんツは、みんなで協力し、楽しくする。

オ. 他のグループのスタんツには、盛大な拍手を送るようにする。

カ. 参加者は、懐中電灯を使わない。

(3) 3部形式の内容

① 迎え火の式 (第1部)

項目	内容	備考	
開式のことば	司会進行係が開式を宣言する。		
営火入場	入場順に従って入場する。 (営火は親火が持参する。)	親火のトーチに火をつける。	
献詞	親火	営火にささげることばを述べる。	
	子火	親火の呼びかけに子火が誓いのことばを述べる。	
	営火長	迎え火のことばを述べる。 点火を宣言する。	
点火	親火、子火、営火長の全員で井桁に点火する。		
呼びかけ	担当者が「呼びかけ」をする。	BGM	
係の退場	親火を先頭に退場する。		

② 交歓のつどい (第2部)

ゲーム、ダンス、歌などのレクリエーションをしたり、団体ごとにスタんツなどをし、参加者全員のふれあいの場や楽しみの場とする。

スタんツは必ず事前に練習してくること。 *レク指導資料を参照する。

③ 送り火の式 (第3部)

項目	内容	備考
開式のことば	司会進行係が開式を宣言する。	係の人は定位置につく

営火長	送り火のことばを述べる。 採火を宣言する。	BGM 係の全員が採火する
呼びかけ	担当者が「呼びかけ」をする。	
係の退場	営火長を先頭に退場する。	
退場	全員退場、順に静かに退場。	BGM

6 井桁の組み方

- (1) 丸太の井桁を組む。
- (2) 細いまきや小枝を縦に入れて、丸太に燃え移るよう考えて組み上げる。
- (3) 井桁の上から出た小枝を、杉の葉で隠し、一つの炎のように仕上げる。
- (4) 全体に灯油をかける。特に井桁の足元は点火場所となるので多めにかける。
- (5) 灯油が染み込むように、数時間前にかけておく。
- (6) 井桁の周りに石や丸太を置く。(参加者が誤って入ってこないように)

7 トーチの作り方

- (1) 芯になる新聞紙を丸める。
- (2) (1) で作った新聞紙をシートで巻く。(ゆるく巻くと燃え尽きてしまうので、きつく巻く)
- (3) (2) で作った物をトーチに入れる。

8 留意点

- (1) 消防署に怪煙届を出す。(TEL 22-0119)
- (2) 風向き、風の強さ、火の粉など十分配慮する。
- (3) この活動は、みんなのために行われるものであるから、準備はみんなで協力して行い係等はみんなで分担して行う。
- (4) 研修団体の目的や年齢等に合わせて、内容など工夫する。
- (5) 実施時間は、事前指導10分、第1部10分、第2部50分、第3部10分程度の時間配分が良い。
- (6) 第1部と第3部は静の時間なので、厳粛な雰囲気の中で行う。
- (7) 第2部は、動の時間であり、親睦と友情のために明るく楽しいプログラムを実施する。各団体の出し物(スタンツ)は1団体3分~5分程度が良い。
- (8) 寒期に実施する場合はジャージを着させるなど防寒に努める。
- (9) 安全を考慮し、ホースを伸ばしておく
- (10) 火は、最後まで燃やし尽くす。
- (11) キャンプファイヤーが終了したことを消防署に連絡する。